



連隊長着任式



志とともに

第21普通科連隊は、令和元年8月1日、第31代連隊長として、五十嵐雅康1等陸佐をお迎えした。

1日朝、連隊長の登庁を知らせる、警衛司令の捧げ銃の号令が駐屯地に響き渡る。表門から発せられた号令は駐屯地に響き渡り、新たな指揮官を心待ちにしている隊員たちの心を引き締めた。

その後着任式は、立会官の第9師団長 岩村陸将の臨場を持って開始された。岩村師団長は五十嵐連隊長を「最も信頼する自衛官」と紹介し、「連隊長を核心とし、国民の負託に答え、国宝師団の継承者として、更なる強靱な連隊の創造を要望する」と述べられ、五十嵐連隊長及び連隊各隊員を激励した。

五十嵐連隊長は着任連隊長の訓示において「プロフェッショナル戦士たれ」と要望された。プロフェッショナルとは「求められる結果を出せる確かな実力を持ち、更なる高みを目指して日々努力していく者たち」であるとし、「この瞬間から隊員諸官と共に笑い、共に汗を流し、共に更なる高みを目指し、共に日々努力していくことを誓う」と述べ、連隊への思いのたけを熱く語った。

21連隊は新たな指揮官を擁し、更なる躍進の時代へと一步を踏み出した。





秋田竿燈まつり



燃え上がる夜

秋田駐屯地（司令 五十嵐 1 佐）は、令和元年 8 月 3 日から 6 日までの間、秋田竿燈まつりに参加した。

竿燈は、250 年以上の歴史を持つ国指定重要無形民俗文化財であり、毎年 8 月 3 日から 6 日までの 4 日間、「竿燈大通り」を会場に行われている。

昭和 45 年から参加を続けている秋田駐屯地竿燈部（部長 潮屋 1 尉）（以下：竿燈部）は、課業外及び休日を活用して練成を重ね、待ちに待った本番に臨んだ。特に今年は創部 50 年を迎える記念すべき年でもあり、部員たちは並々ならぬ熱意を持って祭りへと臨んだ。

午後 7 時、笛の合図が響き渡る。黄昏時の空を稲穂が埋め尽くすかの如く、約 280 本の竿燈が一斉に立ち上がって「竿燈大通り」を覆った。一瞬で色めき立った竿燈大通りは、囃子の勇壮な「竿燈囃子」に合わせ、差し手が「竿燈妙技」を次々に披露し、熱気は最高潮になる。竿燈妙技は「力四分・技六分」といわれ、体格に関係なく、様々な町内で卓越した妙技が披露された。

演技場所を交代で移動する中、竿燈部が訪れると、観客はより大きな歓声を上げた。陸上自衛隊の中型トラックをベースに飾り立てられている竿燈部の屋台は他の屋台に比べ一回り大きく迫力がある為、竿燈の大きさとも相まって、より壮大な演技となり、観客を魅了して止まなかった。

演技終了後は、観客とのふれあい時間が設けられ、特に中型トラックをベースとした自衛隊の屋台の周りには多くの観客が集まり、囃子班の横笛に合わせて太鼓を叩く体験をしたり、自衛隊の屋台や竿燈を背景に記念撮影をするなどし、そのひと時を楽しんだ。多くの観客で賑い、秋田の夜を魅了した 4 日間は、大盛況で幕を閉じた。





令和元年度師団訓練検閲



険しき森を乗越えて

第21普通科連隊（連隊長 五十嵐 1 佐）は、令和元年8月26日から9月9日の間、王城寺原演習場において、第9師団隷下の各職種部隊の配属を受け、第21戦闘団として令和元年度師団訓練検閲を受閲した。

本検閲は、訓練練度の評価を受けるとともに、じ後の練成訓練の進歩向上の資を得ることを目的とし、実施された。

連隊は『防勢的な作戦における行動』を受閲課目として付与され、五十嵐連隊長は本作戦を「オペレーション・フォレスト・プレデター（森の捕食者作戦）」と命名し、戦闘団各隊員に作戦に臨む意識の統一を図るとともに、臨機応変な作戦行動の重要性を説き、多様に変化する状況に応じ作戦を変更する必要性を徹底した。

前進開始までの間は作戦準備期間として、各種是正訓練や隊容検査等を行い、万全の態勢を整え車両行進に備えた。

1日早朝、王城寺原演習場へと前進すると、各部隊は、各々の定められた地域において、速やかに安全化を終え、偽装を徹底し防御陣地の工事を開始した。

動きを阻む雨と水分を奪う晴天が繰り返す中、配属された各部隊と連携しながら、昼夜を問わず築城（工事）と警戒を続け、5日正午から開始された敵の攻撃を退け、六夜七日に渡る防御作戦を完遂した。

特に戦闘団本部を含めた各部隊は、長い防御準備間を最大限に活用し、軽掩蓋化された指揮所を開設し、重厚な防御戦闘を可能とした。

9日には、検閲科目の1つとして、立姿及び背のう依託の射撃を実施。姿勢や肘の置き方等、各々が創意工夫を凝らし臨んでいた。

講評において統裁官の岩村師団長は「タイトな日程の中で練成してきた結果が今回の検閲に十分発揮されていた」と述べ、受閲部隊を労った。

連隊のすべてを惜しみなく発揮した本検閲は、部隊及び個人に大きな経験値と更なる自信を獲得させ終了した。





秋田県(陸・海・空) 自衛隊殉職隊員追悼式



礎の上に

秋田駐屯地（駐屯地司令 五十嵐 1佐）は、9月14日、駐屯地慰霊碑前において「令和元年度秋田県（陸・海・空）自衛隊殉職隊員追悼式」を執り行った。

晴天に恵まれることが多い秋田駐屯地の追悼式は、本年も澄み渡る秋空に恵まれ、十九柱の御霊と参列した者たちの心を安んじる天候となった。式には、ご遺族をはじめ、秋田県、秋田市、各関係機関及び自衛隊協力団体等からの来賓のほか、秋田県所在部隊長、駐屯各部隊長及び隊員が参列した。

五十嵐司令は、「殉職された皆様の尊い志を受け継ぎ、貴重な教訓を活かし、国家防衛という崇高な使命を果たすべく、精強な自衛隊の育成に邁進しますことを、ここに改めてお誓い申し上げます」と追悼の辞を述べた。引き続き、来賓を代表し、秋田県知事代理 総務部危機管理課の渡辺正人氏及び秋田県防衛協会 中泉松之助会長から追悼の言葉、秋田吟詠会鈴木岳順会長の追悼和歌朗詠に引き続き、秋田駐屯地音楽隊による「慰安する」の吹奏での献花、儀仗隊（浦嶋3尉以下13名）による拝礼・弔銃をもって、十九柱の御霊をお慰めし、追悼式を終了した。





千秋花火支援



ワールド・ワイド・パレード

秋田駐屯地（司令 五十嵐 1 佐）は、令和元年 9 月 14 日、秋田駅周辺で行われた『第 5 回 千秋花火』に協力した。

秋田の繁栄の象徴である秋田駅前及び千秋公園において、秋田を盛り上げるため、平成 15 年より『あきた元気倶楽部』により生まれた地域おこしイベント千秋花火。秋田駐屯地は一昨年の第 3 回大会より参加し、本年度は、『はたらく車展』及び『元気パレード』、『地元歌手たちとのコラボ演奏』に参加した。パレードには秋田・岩手両駐屯地音楽隊の合同チームによるマーチング及び軽装甲機動車（通称 LAV）1 両、オートバイ 2 両がパレードに参加した。特に今年は、企画本部の念願であったディズニーとのコラボレーションが実現し、自衛隊車両と音楽隊のマーチングに引き続き、ミッキーマウスを始めとした人気キャラクターたちがパレードを行い、観客は珍しいコラボレーションに例年に無く盛り上がった。

その後、日も暮れた頃になると色とりどりの花火が夜空を飾り、フィナーレには、音楽隊合同チームが演奏する秋田県民歌にあわせて観客も歌い、盛大なクライマックスを迎えた。

約 5 万 4 千人が訪れた千秋花火。県内の各学校や多種多様な職業の人々が、一致団結して趣向を凝らした企画を実施し、年齢や立場を超越した一体感をかもし出し、夜空に大輪の花を咲かせた。今や秋田竿燈まつりに迫る勢いで名を馳せる本行事は、県内外の観客に素敵な夏の思い出を残し、盛大に幕を閉じた。





100kmマラソン支援



100キロチャレンジマラソンを支援

第21普通科連隊（連隊長 五十嵐 1 佐）は、9月21日から23日の間、2019北緯40°秋田内陸リゾートカップ（第29回）100キロチャレンジマラソン（以下100キロマラソン）を支援した。大会支援は重迫撃砲中隊長（森 1 尉）を担当官とし、13名の支援隊を編成して行われた。

今年で29回目を数える本大会は、100km及び50kmの両部門が実施され、全国から1426名のランナーが参加し、険しい頂に挑戦した。100km部門は22日午前4時30分に仙北市角館を、50km部門は午前10時30分に北秋田市比立内を、それぞれスタートし北秋田市鷹巣のゴールを目指した。

小雨が降りしきる中、支援隊は、午前1時30分から出発する選手たちに先駆けて給水所の設営を開始した。その後は、大会実行委員と密接に連携を保ち、給水所の運営及び衛生隊員による救護を担当し、遠きゴールへと果敢に挑戦するランナー達に声援を送りながら支援任務を完遂した。

迷彩服に身を包み、大会の安全確実な実施を完遂するため献身する自衛官の姿は、選手のみならず、多くのボランティアや応援者たちの目にも止まり、支援する隊員たちへの労いの言葉も多く頂いた。

大会は大きな事故も無く実施され、自衛隊と地域との連携を確かなものとし、大勢の笑顔につつまれ終了した。

